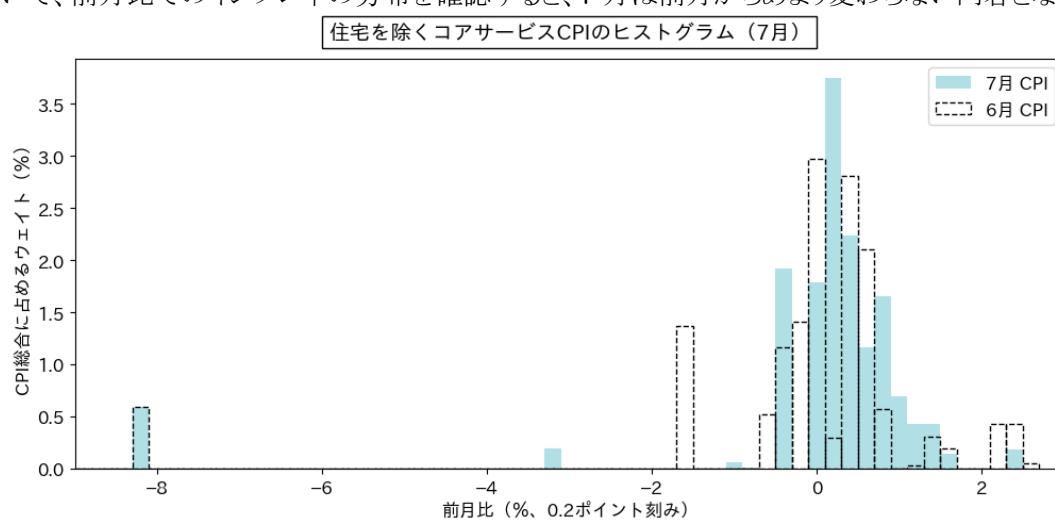


(米国)インフレ率の鈍化が継続

7月の消費者物価指数(CPI)を確認すると、総合は前年比3.2%(前月比は0.2%)、食料とエネルギーを除くコアは同4.7%(同0.2%)となり、鈍化傾向が継続した。5月以降は概ね(PCE デフレーターで測った前年比)2%の物価目標と整合的と思われる、前月比0.2%程度で推移している。なお、住宅費の伸びは前月比0.4%、前年比では7.7%と依然として高止まりが続いている。



労働市場の影響を強く受けたと思われる、「帰属家賃を除くコア・サービス」に該当する各項目について、前月比でのインフレ率の分布を確認すると、7月は前月からあまり変わらない内容となった。



全体としてみると、7月のCPIからはインフレ率の鈍化が継続していると判断できる。前月比での上昇が落ち着いていることは、9月FOMC(19、20日)での利上げを停止する材料となるだろう。もとより、FRBは個人消費の伸びや、労働市場のひつ迫度合を問題視している印象もあり、8月のデータを見る前の現時点では、9月FOMCでの追加利上げの可能性は高いと思われる。